

日本NGO連携無償資金協力 完了報告書

1. 基本情報	
(1) 案件名	カフエ郡チサンカーネ地域における母子保健サービス強化事業
(2) 贈与契約締結日 及び事業期間	・ 贈与契約締結日：2018年3月7日 ・ 事業期間：2018年3月11日～2019年3月10日
(3) 供与限度額 及び実績（返還額）	・ 供与限度額：445,663米ドル ・ 総支出：412,676.49米ドル（返還額：33,283.90米ドル（衛星電話2機の売却費：200.00米ドルおよび車両保険料払戻費：97.39米ドルを含む）、利息0円）
(4) 団体名・連絡先、事業担当者名	(ア) 団体名：特定非営利活動法人 難民を助ける会 Association for Aid and Relief, Japan (AAR Japan) 【法人番号：2010705000721】 (イ) 電話：03-5423-4511 (ウ) F A X：03-5423-4450 (エ) E-mail：staff@aarjapan.gr.jp (オ) 事業担当者名：北朱美
(5) 事業変更の有無	事業変更承認の有無：無

2. 事業の概要と成果	
(1) 上位目標の達成度	<p>3年間の事業を通じ、カフエ郡チサンカーネ地域のヘルスセンターに出産待機所を建設し、また、同地域にオールドカブウェザ・ヘルスポスト（以下、ヘルスポスト）や出産待機所を建設したことで、遠隔地に住む妊婦と家族が出産予定日前に来院し、安心して分娩日まで待機できる環境を整備した。また、妊婦の施設分娩や産前産後健診を地域で推進するため、巡回診療による健診サービスを強化し、地域保健委員会（Neighbourhood Health Committee、以下 NHC）を通じて地域住民の母子保健の知識を向上させた。</p> <p>以上の活動により、妊娠、出産、また5歳未満児の健康に係るリスク低減に向けたカフエ郡チサンカーネ地域の母子保健サービス体制を強化した。</p>
(2) 事業内容	<p><u>(ア) ヘルスポスト建設およびヘルスセンター産科棟の設備強化を通じた施設分娩の促進</u></p> <p>2018年5月に着工したヘルスポストの出産待機所1棟は2018年10月に竣工した。同施設に、ベッド10台、毛布・枕10セット、サイドテーブル6台、洗面器6個などを配備した。2018年10月10日に同出産待機所をカフエ郡保健局に譲渡し、同局が出産待機所を維持管理することを記載した覚書を締結した。</p> <p>第1年次、第2年次事業で建設したヘルスポストや出産待機所および供与した医療機材について、当会職員とチサンカーネ・ヘルスセンター（以下、ヘルスセンター）およびヘルスポストの責任者が月に1回、モニタリングを実施した。モニタリングでは、ヘルスセンターやヘルスポストの責任者が各施設や機材の管理・使用状況を評価表に基づき確認し、不具合がある場合はカフエ郡保健局に連絡する体制を整えた。</p> <p><u>(イ) 巡回診療活動強化を通じた母子診察サービスの改善</u></p> <p>2018年5月7日から10日までの4日間、8つのNHCのメンバー計30名に対し、巡回診療補佐技能研修を実施した。また、12月11日から14日の4日間、同研修に参加した8つのNHCメンバー計30名に対し、巡回診療補佐技能補完研修を実施した（詳細は添付書類⑩活動実績詳細を参照）。巡回診療の際にNHCメンバーが母子保健について講義する「ヘルストーク」において、進行の手順に課題があったため、同補完研修では、カフエ郡保健局の母子保健コーディネーターが中心となって、NHCメンバーのファシリテーション能力を強化した。また、受診日や体重の記録など、正しい記録のつけ方を参加者に教授した。</p> <p>巡回診療はヘルスセンターがカニャンジャ、チプワル、シャチボンドウエの3カ所を、ヘルスポストがナンカンガ、チフエマ、ムワマクサ3カ所を担当し、月に1回継続し実施した。巡回診療に同行するNHCメンバーは、研修で学んだ点に留意しながら補佐活動を行っている。2019年10月19日、巡回診療用の自転車6台とスペアパーツをヘルスポストに供与した。</p> <p><u>(ウ) NHCの組織強化を通じた住民の母子保健知識の向上</u></p> <p>NHCの選抜メンバーから組織した安全なお産推進グループ（Safe Motherhood Action Group : SMAG）50名を対象に、2018年7月16日から20日にかけて5日間の母子保健推進補完研修を実施した。</p> <p>また、2018年11月9日と15日、母子保健専門家の指導の下、2回の母子保健課題改善NHCワークショップを実施した。上述の母子保健推進補完研修の学びから、同ワークショップでは一会場に参加者全員を集めず、NHCの各活動地においてワークショップを実施する形式に変更し、1回あたりの参加者数を減らして参加者の理解を深めた。同</p>

	<p>ワークショップ前に実施したモニタリングの結果、母子保健の推進においてNHCメンバーの医療知識レベルに課題があることがわかった。このため参加者の知識度を詳細に測るためのプレテストをワークショップで実施することとした。同ワークショップには、1回目は30人、2回目は26人のNHCメンバーが参加し、プレテストの結果に基づき、母子保健専門家が血圧の基準値などの知識を教授した。また、受診の遅れによる妊婦の死亡例を共有するなど、母子の危険兆候とその対応について事例を交えて指導した。同ワークショップには郡保健局員やヘルスセンター、ヘルスポストのスタッフも出席し、NHCメンバーの知識向上や地域住民への啓発など、母子保健の課題に取り組んだ。</p> <p>母子保健推進補完研修や母子保健課題改善NHCワークショップを通じ、SMAGメンバーを含むNHCメンバーは妊産婦に対して適切な助言をできるようになったが、妊産婦の家庭訪問時の記録のつけ方が十分でないことが課題として残った。このため、2019年2月26日から28日の3日間、母子保健推進の中心を担うSMAGメンバー32人を対象として母子保健追加補完研修を実施した。研修では、家庭訪問時の記録のつけ方に加え、ヘルストークを円滑に行うためのファシリテーション能力強化のセッションも実施した。</p> <p>母子保健専門家の派遣期間中、当会スタッフは同専門家と郡保健局を訪問し、これまでの活動の成果や課題について説明した。特に母子保健専門家からは、妊婦の状態をより詳細に把握するため、ヘルスセンターに倣ってヘルスポストにおいても超音波検査導入を検討するよう提言した。</p> <p>これらの成果や課題は郡保健局を通じ、ルサカ州保健局にも伝えた。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p><u>(ア) ヘルスポスト建設およびヘルスセンター産科棟の設備強化を通じた施設分娩の促進</u></p> <p>ヘルスポストの出産待機所の開設により、遠隔地に住む妊婦とその家族が出産予定日前に来院し、安心して分娩日まで待機できる環境が整った。2019年2月末までに45人が同出産待機所を利用した。第1年次から第3年次事業を通じて建設したヘルスポストや出産待機所の来院者に対して実施した調査では、97%が施設のアクセスについて「大変満足」あるいは「満足」と回答し、指標を達成することができた。一方、「満足でない」と回答した来院者は、スタッフが時間通りに来ないという点を理由として挙げた。来院者からの指摘はヘルスセンターやヘルスポストの定期ミーティングにおいて都度、改善策を協議している。また、ヘルスポストで出産した妊産婦に実施した調査では、82%が「とても満足している」、18%が「満足している」と答え、一定の質のサービスを提供できていることがわかった。満足の理由として、ヘルスポストのスタッフの対応や、分娩室の清潔さなどが挙げられた。2018年3月から2019年2月末までにヘルスポストで分娩した妊婦の数は83人で、1年前に比べて約32%増加した。</p> <p><u>(イ) 巡回診療活動強化を通じた母子診察サービスの改善</u></p> <p>本事業で実施した巡回診療補佐技能研修および巡回診療補佐技能補完研修により、NHCメンバーは、5歳未満児の適切な成長モニタリング記録の取り方を習得した。その結果、NHCメンバーが巡回診療時の補佐活動をより正確かつスムーズに行うことができるようになり、医療スタッフが診療に充てられる時間が増加した。さらに、家族計画の必要性など、巡回診療時にNHCメンバーが受診者に行うヘルストークの内容をより充実させることができるようになった。また、NHCメンバーがファシリテーション能力を身に付けた結果、一人ひとりがヘルストークをスムーズに行うことができるようになり、受診者のヘルストークに対する関心が高まった。</p>

2018年3月から2019年3月までの期間、悪天候など特別な場合を除き、6カ所の巡回診療地で毎月1回巡回診療が実施され、産前健診受診者数はのべ390名、産後健診受診者数はのべ90名、5歳未満児健診受診者数はのべ6,368名にのぼった。月平均受診者数は第2年次事業時の平均に比べ、約13%増加した。また、本事業を通じ、巡回診療地およびヘルスセンター、ヘルスポストでは、のべ2,908名が避妊薬処方など家族計画の指導を受けた。NHCメンバーが巡回診療補佐技能研修で家族計画の重要性について学び、それを活かした啓発活動の効果が表れた。

巡回診療地6カ所で受診者150人を対象に実施した満足度調査では、約97%が「満足」あるいは「大変満足」と回答した。医療へのアクセスの改善、医療サービスの充実、ヘルストークで得られる知識などが満足の理由として挙げられた。巡回診療において質の高いサービスを継続して提供するため、ヘルスセンターやヘルスポストのスタッフやNHCメンバーは、持ち物や役割などを確認するための事前ミーティングを毎回実施している。

(ウ) NHCの組織強化を通じた住民の母子保健知識の向上

本事業で実施した研修やワークショップを通じ、NHCメンバーは、母子保健について広く学び、地域の母子保健活動を推進している。メンバーは自身の活動が母子の命を救うことを改めて認識し、活動に対するメンバーの意識の向上も見られた。母子保健課題改善NHCワークショップでNHCメンバーに実施した医療知識のプレテストでは、異常高血圧の定義や分娩後出血の危険因子などの理解度に課題が見受けられたが、2019年2月に実施したポストテストでは、全体で正答率が12ポイント上昇した。NHCは第1年次事業で作成した年間活動計画について、研修や実際の活動での学びをもとに、半年に1回振り返りや計画の見直しを行っている。研修を受講したSMAGメンバーも、母子の危険兆候などの知識に関して、絵などを用いながら家庭訪問時に分かりやすく伝えられるようになった。妊産婦および5歳未満児の保護者もNHCが提供するサービスを積極的に利用しており、各地域のNHCは平均約23件の相談業務を行った。また、毎月の巡回診療時には、NHCメンバーが毎回ヘルストークを実施した。2018年4月、7月、10月の3回にわたり、ヘルストークを聴講した8カ所計452人の受診者に対して「妊婦の危険兆候」、「産前産後健診」、「母乳育児」、「家族計画」に関する理解度を調査したところ、3回目の調査では、平均正答率が90%を超えた。1回目の調査から3回目の調査まで連続して正答率が上昇しており、地域住民の母子保健の知識の向上を確認した。

(4) 持続発展性

(ア) ヘルスポスト建設およびヘルスセンター産科棟の設備強化を通じた施設分娩の促進

本事業で建設した出産待機所および供与した医療機材の維持・管理は、カフエ郡保健局が行う。また、本事業を通して、カフエ郡保健局およびヘルスセンターやヘルスポスト責任者が自らモニタリングをできる体制を整えた。第1年次、2年次事業で供与した施設や医療機材に関しても、不具合などが発生した場合には、ヘルスセンターや、ヘルスポストの責任者がカフエ郡保健局に報告し、郡保健局の職員がアドバイスや修繕の手配を行うなど適切に対応している。

また、本事業終了に伴い、当会ルサカ事務所で使用していた発電機をヘルスポストに譲渡したことで、ヘルスポストはより安定した運営をできるようになった。カフエ郡保健局に譲渡した車両（トラック）は、カフエ郡保健局からヘルスセンターおよびヘルスポストへの医療品の配送に使用されている。両施設で医療品の備蓄が少なくなった際はカフエ郡保健局に連絡が入り、医薬品がスムーズに供給されている。

(イ) 巡回診療活動強化を通じた母子診察サービスの改善

各 NHC は毎月一回開催される定例会議で巡回診療の振り返りを継続し、ヘルスセンターやヘルスポストに定例会議の議事録を提出している。カフエ郡保健局に譲渡した当会の車両 2 台は、巡回診療を含めた母子保健推進活動のために使用するよう覚書を交わした。中央政府からの予算の執行が滞ることがあるため、カフエ郡保健局はカフエ郡庁にも車両燃料代を工面してもらえるよう別途働きかけている。

(ウ) NHC の組織強化を通じた住民の母子保健知識の向上

2018 年 11 月に母子保健専門家と当会スタッフ、カフエ郡保健局の母子保健コーディネーターが母子保健課題改善 NHC ワークショップの振り返りを行った。その結果に基づき、NHC メンバーの中心となる SMAG メンバーの意識向上を目的に、SMAG メンバーが他地域の SMAG の活動を見学し、意見交換の場を設けることとした。2018 年 11 月から、同母子保健コーディネーターが主導して、これら活動を実践しており、母子保健推進のための連携強化が期待できる。

また、母子保健課題改善 NHC ワークショップの経験を踏まえ、NHC の定例会の場などを利用し費用を抑えながら、カフエ郡保健局の母子保健コーディネーターが母子保健に関するセッションを推進していく予定である。今後も同コーディネーターが中心となり、NHC メンバーの知識や意識の向上に努める。

NHC メンバーに関しては、職に就いて時間が取れなくなるなど、さまざまな事情から活動を継続できなくなるメンバーもいるが、それぞれの NHC が自ら新規メンバーの採用に取り組み、新規メンバーへ指導を行っている。NHC の年間活動計画については、今後はヘルスセンターやヘルスポストのスタッフが内容を確認し、計画通りに活動が行われているかフォローアップを続けていくこととした。

3. 事業管理体制、その他	
(1) 特記事項	特記事項なし。

完了報告書記載日：2019年6月7日

団体代表者名： 理事長 長（志邨） 有紀枝（印）



【添付書類】

- ① 事業内容、事業の成果に関する写真
- ② 日本NGO連携無償資金収支表（様式4-a）
- ③ 日本NGO連携無償資金使用明細書（様式4-b）
- ④ 人件費実績表（様式4-c）
- ⑤ 一般管理費等支出集計表（様式4-d）
- ⑥ 外部監査報告書
- ⑦ 銀行通帳の出入金記録の写し
- ⑧ 巡回診療地、オールドカブウエザ・ヘルスポストおよびチサンカーネ・ヘルスセンター受診者数
- ⑨ 満足度調査と知識調査の結果
- ⑩ 活動実績詳細